

園評価の結果について

学校法人 北邦学園
菊水いちい認定こども園

令和3年度に実施した菊水いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次の通りです。

建学の精神 『自然から学ぶ』

1 本園の教育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎考え工夫する子
- ◎明るくたくましい子

【学年のねらい】

- 0歳児 保育教諭と触れ合う中で安心感を得て、様々なものや友達に興味をもつ
- 1歳児 保育教諭や友達と関わりながら遊ぶ中で、自分の気持ちを表現する楽しさを感じる
- 2歳児 様々なことに興味や関心をもち、自分の気持ちを表現したり、
友達に親しんだりして関わる楽しさを感じる
- 3歳児 様々な遊びや活動の中で、自分の気持ちを存分に表現したり、
友達と一緒に遊んだりすることを楽しむ
- 4歳児 いろいろな友達との遊びや活動を通して、自分の気持ちや考えを表現したり、
意欲をもって取り組んだりすることを楽しむ
- 5歳児 様々な活動に意欲的に取り組む中で、見通しをもって自分で考えて行動したり、
友達と協力して活動を進める充実感を味わったりする

自己評価	評価内容
B	・前年度の経験を生かし、新型コロナウイルス感染症対策（内容や環境構成を工夫）を講じながら、日々の保育や行事に取り組むことができ、ねらいはおおむね達成できたと考える。

(A：成果が上がった。 B：ある程度成果が上がった。 C：もう少し努力が必要。 D：改善が必要。)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上がった。 B：ある程度成果が上がった。 C：もう少し努力が必要。 D：改善が必要。)

目標/計画	自己評価
<p>環境（ゾーン）の工夫</p> <p>自己評価：A</p>	<p>園庭の環境は複数年をかけて整備し、新しく設置したゾーン（やぐら、キッチン、パーゴラ）の活かし方については、子どもたちの興味や関心を見極めながら環境を整えてきた。</p> <p>パーゴラやその周辺ではベンチやテーブルでじっくりと遊ぶ姿が見られたので、夏の戸外遊びで人気の「色水遊び」を植物によって楽しめるよう「赤しそ」「マリーゴールド」を植えた。</p> <p>花や葉の色、あるいは量やつぶし方によって色の出方が違うことなどを試しながらじっくりと楽しんでいた。今年度はスペースの関係上プランターでの栽培となり、種類も数も十分ではなかったが、絵の具や食紅（人工物）とは違う自然物ならではの発色を楽しめる良い環境だと思う。</p> <p>観賞用の花壇と遊びに取り入れることを目的とした花壇を設置した。いずれの花壇も子どもたちはじっくりと観察することを楽しむ中で、植物が変化していく様子に関心を示しており、「美しい」とか「不思議だ」と感じる豊かな心を育くむ良いきっかけになっている。</p> <p>また、数年かかるが、パーゴラはブドウ棚やふじ棚になる予定となっており、園庭はダイナミックに体を動かすだけでなく、自然物に触れながらじっくりと遊びこむ環境が整ってきている。一方、泡遊びや自然物をすりつぶすための環境は、保育教諭の手が必要で、子どもが主体的に遊びを進めるという点では課題が残った。</p>
<p>乳児の育ちについて学びを深めたり、保育室の環境を工夫する</p> <p>自己評価：B</p>	<p>乳児クラスの環境構成については4年に渡って園内研究の主題に掲げ、評価反省点を明らかにしながら改善や工夫を重ねてきた。子どもの成長に合わせて保育室内を変化させながら、子どもが主体的に活動を楽しむことができる環境になってきたと感じている。</p> <p>保育室全体の大まかなレイアウトは今年度のをベースに考えて良いと思うが、設置する玩具については学園の選定基準をもとに、子どもの育ちに応じた、あるいは育ちを見通したものを選ぶという点については課題がある。</p> <p>0～2歳児の成長（心身、行動の変化など）については、日頃から保育教諭間での情報交換を積極的に行い、共有することはできていたと思う。しかし、専門的な知識のもとに子どもの姿を捉えることや成長を見通すことには課題がある。専門職であることの意識を改めてもち、研修に参加したり、専門書や参考書を読むなどして学びを深める。</p>
<p>玩具や絵本について学び、保育に活かしていく</p> <p>自己評価：B</p>	<p>発表会の活動は、絵本を生かした内容であったり、日頃から読み聞かせを行うなど、絵本への親しみは十分にある。しかし、保育に取り入れることはしているが、絵本についての学ぶことに関しては十分ではなかったため、引き続き重点的課題にあげて取り組むこととする。</p> <p>玩具も学園の選定基準にそって選んでいるものの、そのねらいや意図については共通理解がされていないことも多い。絵本と同様、引き続き重点課題にあげて取り組むこととする。</p>

<p>新型コロナウイルス感染症対策を講じながらも充実した園生活を送れるよう、活動や環境を工夫する</p> <p>自己評価：A</p>	<p>実施方法や内容、環境構成を工夫して、できる限り行事は中止しない努力をしてきた。当園の行事は日々の生活に潤いを与えるものであり、行事に向けた活動（経験）を通して成長を促しているのだが、その姿を保護者の方々にはほぼ見てもらえず、心苦しい1年となった。</p> <p>コロナ対策をしながらの園生活は3年目を迎えることにあるであろうことを考えると、行事の在り方についてはもちろんだが、保護者の方々にどのように子どもたちの姿（成長）を伝えるのか（見てもらうのか）は大きな課題だと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不特定多数の人との場の共有や園バス（限られた空間）での長時間の移動は、感染対策の観点から避けざるを得ず、その結果園外保育の機会が格段に減った。コロナの感染状況によるが、次年度は園とは違う環境での活動を楽しめる方法を考える。
--	--

3 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
「いちいの保育」について理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・教育保育課程、指導計画の改訂を行う。 ・建学の精神のもとに行っている「いちいの保育」について、大切にしているもの（心がけや意識など）やねらいを共通理解する。（手段のみの継承にならないよう確かめ合う）
預かり保育と2号児保育時間の充実とメリハリ	<ul style="list-style-type: none"> ・園全体の日課票を見直す。 ・園で過ごす時間が長いからこそそのメリハリを大切にする。 ・子どもなりに生活に見通しをもち、主体的に行動できる環境構成や援助の在り方について考える。
玩具や絵本について学びを深める	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の玩具選定基準をもとに選んでいるが、そのねらいや意図を共通理解する。 ・玩具を通した子どもの育ちについて学ぶ。 ・学園の図書委員会を生かし、絵本について学ぶ。